公民科（人権）学習指導案

1　単　元　名　　「国際政治の動向と日本の役割－地域紛争と人種・民族問題－」
（　ネルソン・マンデラの生き方に学ぶことからレジリエンスを育む　）

2　単元設定の理由（省略）

3　ねらい

（1）冷戦後の新しい国際秩序のあり方について考えさせる。

（2）人種や民族についての正しい知識と理解を深めさせるとともに偏見がもたらす様々な問題について考えさせる。

（3）人類にとって，異なる宗教や文化の尊重が人権尊重社会の実現と平和への道であることを理解させる。

4　指導計画

第１回	映画『インビクタス』（前半）視聴	…	１時間
第２回	映画『インビクタス』（後半）視聴	…	１時間
第３回	「人類共通の課題『人権』」（本時）	…	１時間（本時）

5　本時

（1）目標

①南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種隔離政策）は，過去の欧米列強の植民地支配に起因することを理解させる。

②南アフリカ共和国ではアパルトヘイトにより，一握りのアフリカーナが政府や軍を動かし，経済を掌握していたため，差別されていた他の白人や有色人種から激しい抵抗運動が起こり，他の国からも制裁を受け，アパルトヘイトが廃止になったことを理解させる。

③1991年にアパルトヘイト関連法律が廃止されたが，人種や民族間の誤解や偏見は根強く，簡単には人種や民族の融和ができないことを理解させる。

④エスノセントリズムを乗り越えるためにはどうしたらよいか理解させる。

（2）個別人権課題　・・・人権尊重の精神，共生社会の実現

（３）展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 ５分	○前時の確認。 ○本時の学習内容を確認する。	○時間を取りすぎないように注意する。	○前時までに視聴したストーリーや意味を理解している。（知識的側面）
展開 30分	○人種・民族・宗教による生活・文化の違いが誤解や偏見を生み，差別や紛争の原因になっていることを理解する。	○世界には様々な人種・民族・宗教があり，それらの生活・文化の違いが時には差別や紛争にまで至ることに気付かせる。	○人種・民族・宗教による生活 ○文化の違いが生む誤解や偏見について理解している。 （知識的側面）
	○アパルトヘイト（人種隔離政策）がどのような政策か，南アフリカ共和国がどこにあるか理解する。	○アパルトヘイトが白人と非白人を差別的に規定するものであったことと南アフリカ共和国の位置を知ることで，かつての植民地支配について考えさせる。	
	○ネルソン・マンデラについて説明を聞く。	○マンデラが生まれ，南アフリカ共和国の大統領になるまでを，年表で説明する。（具体的にいくつかの大きな項目をあげておく。）	
	○マンデラらのとったそれぞれの言動の目的を考える。	○映画の場面と台詞を使用し，マンデラらが白人と非白人の融和のためにとった言動からエスノセントリズムを乗り越えるにはどうしたらよいか考えさせる。	○他の民族に対する互いの誤解や偏見が，人権の抑圧につながっているということ，誤解や偏見を解くには何が必要かを考察している。 （価値的・態度的側面）
	○2010年，南アフリカ共和国で行われたサッカーのワールドカップについて考える。	○岡田ジャパンに対するワールドカップ前とワールドカップ後の国民の対応はどうだったか。またワールドカップの時の南アフリカ共和国の現状について考えさせる。	○国民がチームを信頼し，一つになった時，そのパワーは持てる力以上の力を引き出すことができる。しかし，現在の南アフリカ共和国はどのような状態か考えている。
まとめ ５分	○人権を世界中の人に保障するためにはどうしたらよいか考える。	○人権尊重社会の実現の為には，国家社会が国家の枠を越えての協調，また一人一人の意識や行動が重要であることを考えさせ，その一人一人の意識や行動がレジリエンスを育むことを説明する。	○人種・民族・宗教の相違を越えて人々が協調することの大切さを理解できる。（知識的側面）